



十二支

<「十二支の話」あらすじ>

大昔、ある年の暮れ。神様が動物たちに言いました。「元旦の朝、新年のあいさつに集まりなさい。来た者から順番に、十二番目までをその年の大将にしよう。」

それを聞いた動物たちは、喜んで、お正月を楽しみに待ちました。ところが、ネコはうっかり集まる日にちを忘れてしまいました。ネコに日にちを聞かれたネズミは、「新年の2日」とうそを教えたのでした。

1月1日、元旦になりました。自分は足が遅いと、まだ暗いうちから出発したウシ。その様子を見ていたネズミは、こっそりウシの背中に飛び乗りました。ウシは、朝早く神様の前に到着しました。そこへネズミが飛び出し、ネズミが一番。ウシが二番となりました。他の動物たちも次々と到着し、十二番目にイノシシが到着しました。一番のネズミが今年の大将、来年はウシ、順にトラ・ウサギ・タツ・ヘビ・ウマ・ヒツジ・サル・ニワトリ・イヌ・イノシシと続きます。こうして「十二支」が決まりました。

ちなみにネコは、ネズミに教えられた通り2日に神様の所へ行きました。神様からすでに昨日決まったことを聞いたネコは怒って、うそをついたネズミを見つけると追いかけるようになったそうです。

<献立例> 「新年お祝い給食」

- ・お雑煮
- ・だいだいのムース
など

